五社神古墳（神功皇后陵）

五社神古墳は、全国第 13 位※の規模を誇る前方後円墳で、宮内庁により第 14 代仲哀天皇皇后の神功皇后の陵に治定され、「狭城盾列池上陵」として管理されています。
五社神古墳は、佐紀盾列古墳群の西群に位置し、墳丘長 267m、後円部径 190m、高さ 26m、前方部幅 150m、高さ 19mの巨大な古墳です。
墳丘は後円部 4 段、前方部 3 段築成で、背面の丘陵部を切断して成型していますが、後円部の北側一段目が途切れ、一部3段になっています。
周囲には鍵穴型の周濠が、後円部背後を除く三方をめぐらし、墳丘からは、埴輪や葺石など、が出土していますが、周濠は当初にはなく、のちの時代に造られたとの見方もあります。
後円部西北側では、円墳2～4基（宮内庁の飛地い号～に号）と方墳1基（宮内庁　域内陪塚）が存在します。陪塚だとすると、初期の事例となる可能性があります。

平安時代に成務天皇陵（佐紀石塚山古墳）と混同された事が「続日本書記」で知られ、江戸時代には考謙・称徳陵（佐紀高塚古墳）と考えられていましたが文久 3 年（1863）に神功皇后陵と治定され今に至っています。現在、拝所の西端に並んでいる石燈篭八基は、従来神功陵とされていた佐紀陵山古墳（日葉酢媛命陵）から移築されたものです。
尚、五社神という名前は時期は不明ですが後円部墳頂に祠堂があり、五社神と呼ばれていた事からきていると思われます。

築造年代については、従来、五社神古墳を佐紀古墳群で最初に築かれた 4 世紀前半～中頃の古墳で、行燈山古墳（崇神天皇陵）などの特徴を引き継いだ古墳と考えられてきましたが、2003, 2004 年の宮内庁の調査や以前に採集された埴輪から、4 世紀中頃～末の可能性が高くなっています。
従って築造された順番は、**佐紀陵山古墳→佐紀石塚山古墳**→五社神古墳（佐紀古墳群西群の大型古墳中、最終段階の古墳で、以後王墓は古市古墳群に営まれます）

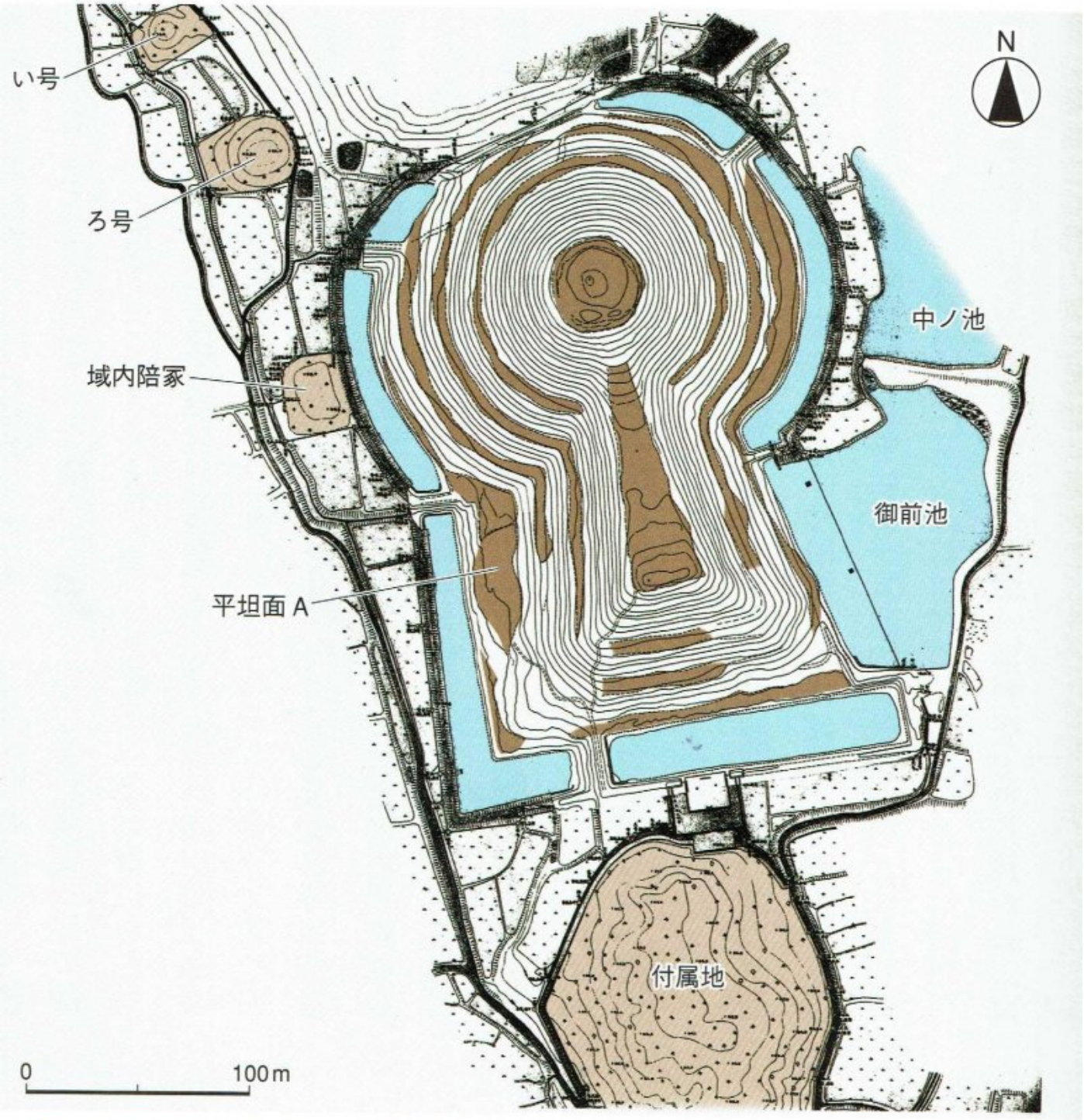
2004 年の調査では、墳丘の精密な測量が実施され、後円部の北部がやや寸づまりになっている事と、前方部の南東角が現状よりさらに長く、現在の周濠の中まで達している事が判明。幕末期の修復でかなり形状が変化している事が確認されました。
西側くびれ部分から南にかけて広い平坦面の広がりが以前から指摘されてきましたが、くびれ部分に**造り出しが存在した**可能性が高まりました。
とすれば、造り出しの初期事例となります。
また 2008 年 2 月 22 日、陵墓としてはじめて研究者 16 名による**立入観察**が認められました。1 段目のテラス部分のみに限定的ですが、陵墓の非公開原則を転換させる第一歩となったことは意義があります。

※ 2020 年、ウワナベ古墳の墳長が 270～280 と発表があり、ウワナベ古墳が全国 12 位となった

山稜八幡神社

祭神：神功皇后、応仁天皇、玉依姫命

山稜八幡神社の鎮座地はもともと鷹塚と呼ばれ、黄金の鷹（応神天皇の化身・八幡大菩薩）を埋めたという伝説があります。本殿の真北に神功皇后陵・拝所があり、
山稜八幡神社で参拝すれば神功皇后陵にも参拝したことになります。



さき たかづか（しょうとく・こうけん）

佐紀高塚古墳(称徳・考謙天皇陵）

佐紀盾列古墳群の西群に属する全長 127 メートルの中型の前方後円墳です。被葬者は明らかではありませんが、宮内庁により「高野陵」として第 48 代称徳天皇の陵に治定されています。しかしながら、称徳天皇が崩御した 8 世紀に前方後円墳の築造はありえず、真陵は西大寺の西方「奈良自動車学校」の南側丘陵、字高塚あたりではないかという説も出されています。
続日本記及び『西大寺資財流記帳』の記述を基にすると、称徳天皇の陵は、
西大寺の寺域東限ではなく、西限の地に存在したと推定されることによります。

★被葬者・・・・・ではなぜ本墳を称徳天皇陵にあてたか？
確かな例は鎌倉時代、**「大和国西大寺往古敷地図」**に「本願御陵」の墨書きがあり、本墳を示していたことによります。本願天皇とは、西大寺建立を発願した称徳天皇のことです。
中世後期の西大寺経営戦略、つまり寺領の確保または拡張という背景から、
ゆかりのある陵墓を称徳天皇陵とすり替えたのでは？と考えられます。

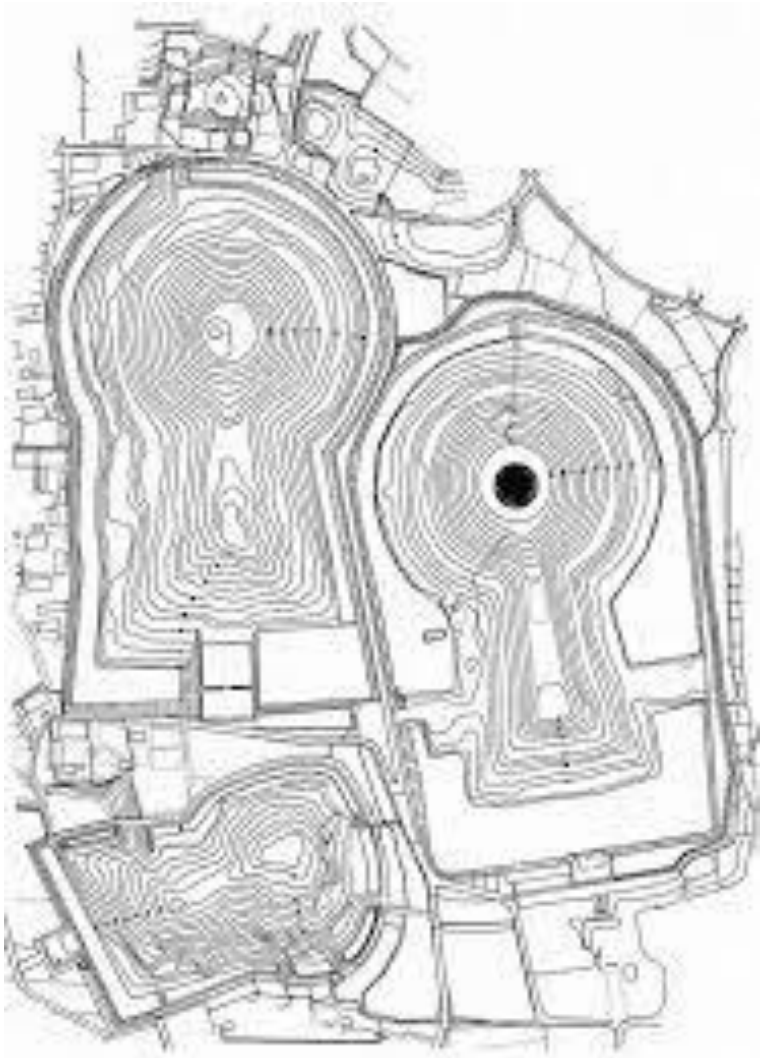
江戸元禄時代の**「西大寺伽藍絵図」**には、「本願称徳御陵」と示された位置が、先の「大和国西大寺往古敷地図」と違っており、五社神古墳が称徳天皇陵、神功皇后陵は佐紀陵山古墳とされていました。西大寺が別の場所にした意図は判りません。
幕末の文久 3 年、**「大和国西大寺往古敷地図」**が見直され、五社神古墳は神功皇后陵に、称徳天皇陵は佐紀高塚古墳に修正され、現在に至っています。

★墳形：前方後円墳（全長 127m、後円部径ｎｍ ,高さ 18m ,前方部幅 70m 、
高さ約 13m)3 段築成、狭い周濠あり。西郡の前方後円墳が南向きであるなかで、
唯一西向き。中型の前方後円墳が単独で西小支郡に築造されたとは考えにくい。
南向きの石塚山古墳や御陵山古墳の主軸に直交する状態で配置され、
大型前方後円墳に随伴する古墳として理解できるのではないか？

★築造年代：５世紀前半。発掘調査が行われていないのではっきりしない。
西小支郡のある丘陵でも優先的ではない西南端に立地することから、
石塚山古墳や御陵山古墳に先行して築造されたとは考えにくい。

佐紀高塚古墳

佐紀石塚山古墳　佐紀陵山古墳　佐紀高塚古墳



塩塚古墳

　佐紀盾列古墳群の大形古墳の多くは、陵墓もしくは陵墓参考地で立ち入りが制限されています。そんな中で規模はやや小さいとはいえ。瓢箪山古墳と共に塩塚古墳は、佐紀古墳群の性格を知る上で貴重な古墳です。
西郡東小支郡に位置し、中期前葉以降の築造とみられる中型の前方後円墳。
過去幾度となく破壊の危機に直面した古墳ですが、現在は国史跡として
保護されています。しかし、フェンスで囲いがされ、残念ながら見学は
東側のフェンス越しとなります。
余談ですが解説板に「原形がよく保存されている古墳」とありますが、
見てわかるように前方部が削平され、築造時から大幅に改変されており、
どういう訳で、そう書かれているのか理解に苦しむところです。

★墳形：前方後円墳、全長 105m、後円部径 70m、高さ 9m、 前方部幅 55m
高さ 1.5～2m
前方部を南に向ける。埴輪あり葺石？現状は、後円部を中心に空濠が巡っていますが
前方部にはありません。これは前方部と同じく元々全周していたものを、
前方部の削平した土で埋め平坦地にしていた可能性が考えられています。

前方後円墳ですが前方部の高さが異常に低く元々このような形だと考えられていましたが、1979 年の調査時に前方部から多量の瓦が出土しました。
これは**奈良時代に松林苑（庭園設備）の一部**として前方部が削平され、その後、建物が建てられていた為に低くなったようです。

★埋葬施設：粘土槨(南北方向に全長 6.8m、幅 6.3～6.5ｃｍの長大な木棺を
　粘土で包んでいる)
★副葬品：蕨手形刀子４口、鉄斧 15 点、鉄鎌 9 点、短剣 3 本。
★築造年代：5 世紀中頃
★発掘調査：1956 年、1973 年、1979 年
（史跡整備に伴う再測量と墳丘裾へのトレンチ調査）
★被葬者：不明

塩塚古墳